

「自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標」の自己評価

団体名	三好市
-----	-----

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
地域住民の活動の立ち上げ支援、組織づくり支援等を実施する。(いきいき百歳体操)	加齢に伴い要支援・要介護認定を受ける高齢者が多くなっているため、地域の高齢者が生きがい等をもって生活できる地域づくりが重要である。住民主体の通いの場等の拠点を整備することで自主活動を支援していく。		目標	60箇所	65箇所	70箇所	感染対策を講じた上で実施。コロナ禍で2か所は止めることとなったが、新たに4箇所が実施。今年度より、フレイルサポーターさんに、通いの場で定期的実施している各種体力測定をサポートをしてもらった。	○	高齢者の新型コロナワクチン接種率も90%を超え、感染対策と小規模での開催で継続している。直接的なコロナウィルス罹患よりも、これらに起因するストレス、閉じこもりによる鬱での不健康の方が作用は大きい。今後も高齢者の健康寿命を延ばしていける通いの場を継続する。
		58箇所	実績	61箇所					
生活支援等サービスを提供するボランティアとなるための研修等を実施する。	今後は地域の介護の担い手不足が予想される。前期高齢者の増加が見込まれるため、地域の生活支援ニーズと地域の元気な高齢者の活動をマッチングさせる取組を推進していく。		目標	6箇所	6箇所	6箇所	三好市第2層協議体の活動を支援し、地域の見守りの担い手を養成する三好市生活支援サポーター養成講座を市内6箇所で開催した。	○	コロナ禍で開催数は減少となったが6地区での開催は継続し、地域の生活支援サポーターの確保も達成している。
		6箇所	実績	6箇所					
住民主体の自主活動として行うサービスBを実施する。	多様な日常生活上の困りごと等に対応するために、地域全体で共通の意識を持ち、地域にあった新たなサービスを創出できるよう支援していく。		目標	6箇所	7箇所	8箇所	2020年度より市内1地区1箇所で通所B(緩和型)が開始され、継続している。	○	長期化して1箇所は休止しているものの、新型コロナウィルスとの共生を視野に入れつつ活動を継続している。2022年度以降、活動団体の数を少しでも増へもっていきよう住民の意識を刺激していきたいと考えている。
		5箇所	実績	6箇所					
自主グループ活動を行っている団体等に対して介護予防についての支援を実施する。(地域介護予防教室、地域いきいき事業等)	自主活動を行っている団体等に介護予防について啓発等を行うことで、介護予防に対する意識を高めて、介護予防につなげていく。		目標	20箇所	21箇所	22箇所	地域の自治会、老人クラブ、婦人会等において、介護予防教室(体操、生活習慣病等)を実施。	△	コロナ禍の影響により実施数が減少したままの状況が続いている。それで再開した箇所は粘り強く続けている。
		10箇所	実績	12箇所					

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
認知症の方に対する早期診断・早期対応のための体制づくりを実施する。	住み慣れた地域で生活をするためには、認知症の高齢者等への専門職の早期の関与等が重要と考えられる。早期診断・早期対応のための体制づくりを構築していく。	1回	目標	1回	1回	1回	前年度と同様、書面会議での開催。チームの取り組み状況や対応、施策について分かりやすく報告。	○	認知症関連で関与する方は年々増加しており、医療や介護サービスに繋がらないケースは定期的に訪問するなど、包括支援センターで経過をみている。令和3年10月から「つながろう三好ネットワーク事業」を開始し、地域住民の認知症に関する理解を広げながら、地域での見守り活動や相談窓口の充実など、認知症の方やその家族の孤立を防ぎ支援する体制を構築している。
オレンジ（認知症）カフェ等を開催する。	認知症の人やその家族が地域の人や専門家と気軽に出会える場がない。相互に情報を共有しお互いを理解し合う「認知症カフェ」等の設置を推進していく。	8回	目標	10回	12回	12回	オレンジカフェは毎月開催（12回）。山間部に入っていないため、オレンジカフェとは別に三好市全地区（支所単位）で認知症ミニカフェを開催（10回）。	○	辻の「いろり」をオレンジカフェの拠点とし、認知症の方やその家族等が気軽に参加できる場をつくり、家族の支援に繋げる。将来的には、行政ではなく、認知症サポーターや地域が主体となるカフェが実施できるよう体制整備を図ため、サポーターの方も関わられる体制づくりを目指す。
認知症サポーターを養成する。	住み慣れた地域で生活をするためには、地域住民等の理解や支援も重要と考えられる。そのためにも認知症サポーターを養成し、地域全体で認知症に対する理解を深め、支えていける地域づくりを行っていく。	2021.3.31 サポーター 数2,747人	目標	2800人	3000人	3100人	市内中学校に加えて、三好市職員（環境福祉部）を対象として実施。	○	今後も住民、職域、学校を対象にした認知症サポーター養成講座を実施し、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族に対して温かい目で見守ることができるよう啓発していく。
地域ケア会議を開催する。	他職種で検討することにより有効な解決手段等を導き、自立支援に資するケアマネジメントの支援を行うことで重度化防止や自立支援につなげていく。	9回（地域 ケア会議2 回、自立支 援型ケア会 議1回、個 別地域ケア 会議6回）	目標	9回 （地域ケア 会議2回、 個別地域ケ ア会議6 回、自立支 援型ケア会 議1回）	9回 （地域ケア 会議2回、 個別地域ケ ア会議6 回、自立支 援型ケア会 議1回）	9回 （地域ケア 会議2回、 個別地域ケ ア会議6 回、自立支 援型ケア会 議1回）	三好市地域包括ケアシステムの推進の一つとして協議してきた「つながろう三好ネットワーク」を立ち上げ、2021年10月に三好警察署と協定を締結。個別ケア会議では、様々な困難事例があるが、関係者で情報共有し、役割分担して対応。自立支援ケア会議は、コロナ感染者が急増したため、中止。	○	事例（個別地域ケア会議）の共有と学びを通して充実した会議を開催していく。地域ケア会議で、すべての高齢者の方を含む住民が、孤立することなく地域で自分らしい生活をするための地域包括ケアシステムの仕組みづくりを構築していく。